



令和2年10月13日(火)
国土交通省関東地方整備局
港湾空港部

記者発表資料

「ICT（情報通信技術）を活用したコンテナ輸送効率化 『CONPAS』（新・港湾情報システム）について ～事前予約制度の実現に向け試験運用を行います～

関東地方整備局では、国際コンテナ戦略港湾京浜港の国際競争力強化を図るため、コンテナ輸送の効率化、生産性向上に向けた取組みを推進しています。その一環として、コンテナ輸送に関するリアルタイム情報の共有・活用により、セキュリティを確保しつつゲート処理、輸送の効率化等を目指し、『CONPAS』（新・港湾情報システム）の実用化に向けた取組みを進めています。

今般、関係者の協力のもと、横浜港南本牧ふ頭コンテナターミナルと本牧ふ頭BC2コンテナターミナルにおいて、『CONPAS』を活用したコンテナ輸送効率化の試験運用を行うことと致しましたので、お知らせ致します。

【CONPAS試験運用の概要】

試験運用期間：令和2年10月14日（水）～令和2年10月23日（金）

※但し10月18日（日）は除く

試験運用実施場所：横浜港南本牧ふ頭コンテナターミナル

横浜港本牧ふ頭BC2コンテナターミナル

実施内容：搬出入コンテナ(実入り・空)を対象とした事前予約制度の運用

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ・神奈川建設記者会・横浜海事記者クラブ・物流専門紙・その他専門紙

問い合わせ先

関東地方整備局 港湾空港部

港湾高度利用調整官 笠井 良真

クルーズ振興・港湾物流企画室

室長 大野 勉

課長補佐 森川 忠泰

電話 045-211-7437 FAX 045-211-0204

ICT(情報通信技術)を活用したコンテナ輸送効率化 『CONPAS』(新・港湾情報システム)について ～事前予約制度の実現に向け試験運用を行います～

1.概要

セキュリティを確保しつつ、手続きの簡素化、ゲート前の混雑緩和等を図り、コンテナ輸送の効率化及び生産性の向上を図ることを目的に、『CONPAS』試験運用を行います。

南本牧ふ頭コンテナターミナルでは、これまで7回の試験運用を行い、ゲート前待機時間の削減等の効果を確認しています。今回は、新たな取組みとして、第一待機場の一部をCONPAS予約車の待機スペースにするとともに優先ゲートを設けて試験運用を行い、本年度内の本格運用に向けて検証します。

また、2回目の試験運用となる本牧ふ頭BC2コンテナターミナルでは、CONPAS予約車の予約確認と待機スペースを本牧ふ頭A突堤に設けて行います。

2.実施期間・実施場所

期 間：令和2年10月14日(水)～10月23日(金) ※10月18日(日)を除く

場 所：横浜港南本牧ふ頭コンテナターミナル
横浜港本牧ふ頭BC2コンテナターミナル

参加店社数：南本牧ふ頭コンテナターミナル最大160社程度
本牧ふ頭BC2コンテナターミナル20社程度

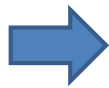
(南本牧ふ頭コンテナターミナルは8回目の試験運用、本牧ふ頭BC2コンテナターミナルは2回目の試験運用となります。)

3.試験運用のしくみ

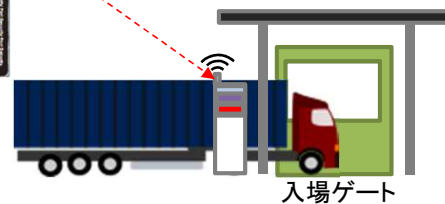
○事前予約制度



ターミナル入場時間を『CONPAS』に
事前登録(予約)



運転手がリーダーにPSカードをタッチ



入場ゲート

PSカードを利用してゲート処理

(今回の試験運用では、搬出入車両(実入り・空)が対象となります。)
(事前登録した参加車両は、試験運用車両レーンを走行します。)

※試験運用の係員・誘導員は、フェイスガード装着等新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施します。

お問い合わせ

国土交通省 関東地方整備局 港湾空港部 クールズ振興・港湾物流企画室
森川、篠原

TEL 045-211-7437

MAIL pa.ktr-portlogistics@ml.mlit.go.jp

CONPAS[®]
Container Fast Pass

- 関東地方整備局において、ゲート処理等の効率化、セキュリティの向上等を図るためのシステム「CONPAS」を開発。
- 2017年度より試験運用を行い、これまでに、搬出・入コンテナのゲート入場の事前予約、IC付身分証(PSカード)による入場、外来トレーラーの接近情報を利用した事前荷役のシステムが完成。
- 2019年2月から3月に、搬入票の電子化に関するシステムの動作確認を実施。4月から5月に、繁忙期における事前予約システムの試験運用、6月から7月に、参加店社を拡大した事前予約システムの試験運用を実施。
- 2019年11月に試験運用実施ターミナル、参加陸運店社等を拡大した試験運用を実施。

試験運用の経緯

【実施場所】

横浜港南本牧コンテナターミナル(第1回～第7回)
本牧BC2コンテナターミナル(第7回)

【実施期間】

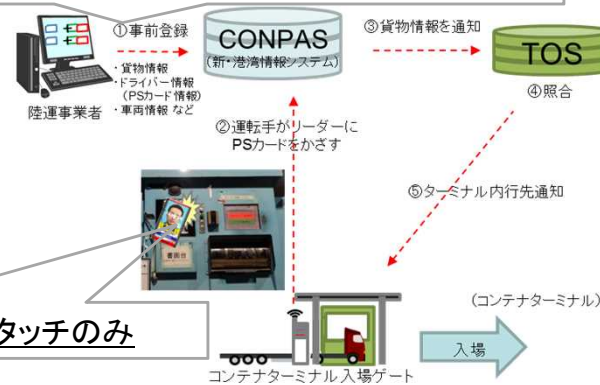
- 第1回 2018年1～3月、第2回2018年8～9月
・PSカード入場・事前荷役システムの試験運用
 - 第3回 2018年11～12月
・事前予約システムの試験運用(搬出コンテナ)
 - 第4回 2019年2～3月
・事前予約システムの試験運用(搬入コンテナ)
・搬入票電子化システムの入力端末の動作確認
 - 第5回 2019年4～5月
・繁忙期における事前予約システムの試験運用(搬出・入)
 - 第6回 2019年6月～7月
・参加陸運店社を拡大した事前予約システムの試験運用(搬出・入)
 - 第7回 2019年11月
・試験運用実施ターミナル、参加陸運店社を拡大した事前予約システムの試験運用(搬出・入)
- 【参加者】
南本牧コンテナターミナル、本牧BC2コンテナターミナル
神奈川県トラック協会海上コンテナ部会

CONPASを活用した搬出・搬入ゲート手続きの効率化の概要

※ TOS: Terminal Operating System

- ドライバー情報(PSカード情報)を活用し、セキュリティを確保しつつドライバーの誤入力を防止、ゲート処理時間を短縮
- 事前予約により、ゲート前混雑を緩和(搬出・搬入コンテナ)

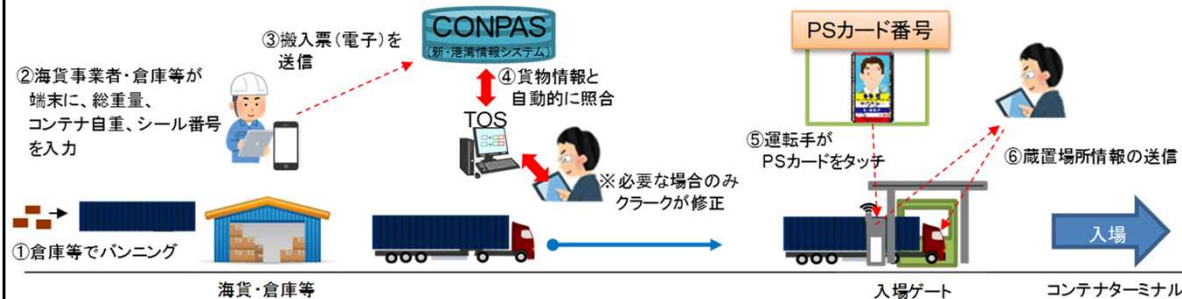
入場時間の予約を行って並ぶことなく入場



貨物情報の手入力→PSカードのタッチのみ

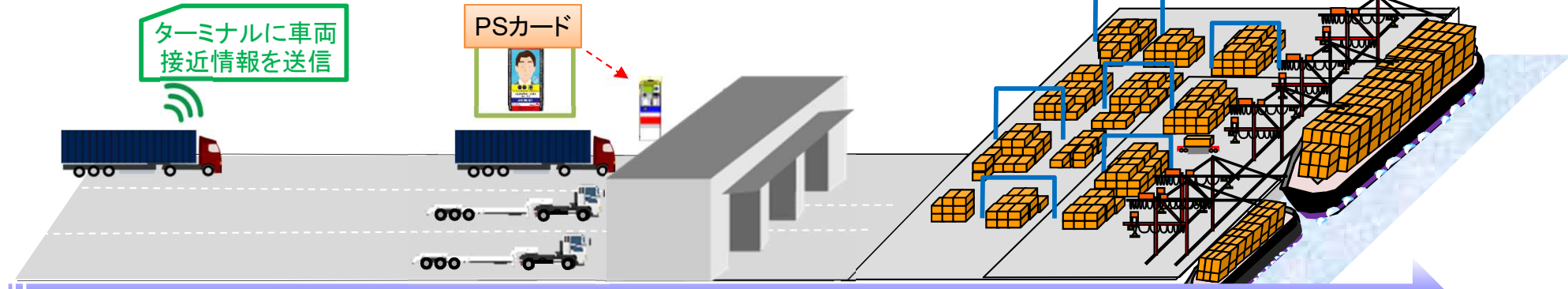
CONPASを活用した搬入票の電子化による搬入ゲート手続きの効率化の概要

- 搬入票を電子化し、コンテナ到着前に搬入票情報をコンテナターミナルに通知し事前処理することにより、ゲート処理時間を短縮
- ※試験運用では、搬入票電子化入力端末の動作確認を実施。



- CONPASは、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図り、コンテナ輸送の効率化及び生産性の向上を図ることを目的として国土交通省が開発した新・港湾情報システム。
- コンテナターミナル周辺の混雑が深刻化する中、情報技術の活用により、ゲート処理及びヤード内荷役作業を効率化するための実証を実施中。横浜港での実証を踏まえ、今後他港へも拡大。

※Container Fast Pass:ゲート処理等の効率化やセキュリティの向上を目的としたシステム



臨港道路 ゲート前 ゲート ヤード

搬出入予約制度

搬出入予約制度を導入し、集中する時間帯のトレーラーを分散・平準化

→ ターミナル全体の搬入車両のゲート前待機時間を**約1割削減**

※全搬入車両の14%がCONPASを利用した場合

PSカード活用

搬出入票の提示等を省略し、PSカード(ICチップ付き身分証明書)のタッチのみで入場処理

→ ゲート部所要時間を**約2割削減**(搬出)

搬入情報の事前照合

搬入手続(搬出入情報とTOSデータの照合)をコンテナがゲートに到着する前に実施

→ INゲート処理時間を**約6割削減**(推計値)

車両接近情報の活用

車両接近情報を検知し、事前にコンテナを取り出しやすい位置に移動

→ **15分程度**の荷繰り準備時間を確保

※TOS:ターミナルオペレーションシステム

情報技術の活用によるコンテナ搬出入処理能力の向上